

交通安全研修に
参加しました!

那珂医師会による認知症予防教室 「ゾテリア東海」って、どんなところ?

「ゾテリア東海」では、認知症についての学習のほか、脳活性のための創作活動や旬の献立調理(共食)、参加者同士の交流などを行っています。

認知症予防と、認知症になっても安心して暮らせるまちづくり(共生)について学び、日々の活動につなげています。ぜひお気軽にお越しください。

期日▼8月1日・8日・22日・29日(全て木曜日)

時間▼午前10時～午後3時

場所▼なごみ・総合支援センター

対象▼村内在住で65歳以上の方

参加費▼500円/回(教材費)

問い合わせ▼地域包括支援センター(☎287-2516)

※事前申し込みは不要です。

「ゾテリア東海」では、交通安全研修に参加し、安全な歩行や自転車・自動車の運転技能を再確認しました。

横断歩道を渡る時は、渡る前はもちろん、渡っている間にも左右をよく見ること、急いで渡ろうとしないこと、見通しの悪い所では立ち止まって安全を確認することなどを、参加者たちは実践を通して学びました。



ふるさと歴訪
〜歴史を再発見〜

甘粕健先生と東海村

甘粕健先生は1930年8月に静岡市(旧安東町)で生まれ、青山学院中等部時代に広島県府中中学校へ転校した。そこで豊元国先生に考古学の手ほどきを受け、17歳で都立青山高校(2年)へ編入、卒業後は東京大学へ進学し、文学部で考古学を専攻した。大学院修了後は東京大学東洋文化研究所の助手となり、江上波夫先生の指導の下「東京大学イラン・イラク学術調査団」の中心的調査員として活躍した。その後は新潟大学の教授となり、1996年3月の定年退職を迎えるまで、後進の指導と古墳時代研究に多くの成果を残した。その後、新潟市立歴史博物館の初代館長として現在の博物館の基礎を作った。

さらに、甘粕先生は全国の考古学上の遺跡の保存に活躍した。現在、開発から免れて保存されている遺跡の大半に関係し、日本考古学協会の会長として「旧石器捏造問題」の処理に大きな役割を果たした。先生の主な研究は前方後円墳で、特に



【真崎5号墳の埋葬施設にて、茂木(写真左)の説明を聞く甘粕先生(写真右)】

先生はその足で須和間遺跡を見学するため、私の車で保存されている墳丘の見学へ向かった。見学を終えJR東海駅に向かう車の中で、村の遺跡保存に対する姿勢を大変評価していると話されたことが印象的で、今もなお記憶している。先生は2012年8月4日、81歳で生涯を終えられた。

形態研究で大きな業績を残している。私の知る限り先生は三度ほど東海村を訪れ、古墳を踏査している。2006年の真崎5号墳の発掘調査では、遠路新潟から、後方に発見された埋葬施設へ見学に来て、「副葬品の有無にかかわらず、現在までわが国で発見できなかった埋葬施設を発見できたことは、これからの古墳研究の基本資料となり、この古墳調査の意義は大きい」と話された。わが国を代表する古墳研究の第一人者からこのようなお墨付きを頂けたことで、当時調査に従事した参加者全員が感動したことは当然である。

茨城大学名誉教授

茂木 雅博